

製作中の2函のケーソンを
フローティングドックから引き出します！
～海上からのプレス向け見学会～

酒田港湾事務所では、港外からの波浪を防ぎ、酒田港における船舶の安全な入出港や荷役作業を可能とするため、防波堤の整備を進めています。

この度、2函のケーソンを製作していたフローティングドック（FD）を外港地区まで曳航し、FDからケーソンを引き出す作業を行います。

報道機関の皆様には、港湾業務艇「みずほ」に乗船していただき、海上から引き出し状況を取材いただきます。

記

1. 日 時：平成28年9月21日（水） 午前7:45～10:30頃
※気象海象状況等によっては延期する場合があります。
2. 見学内容：港湾業務艇「みずほ」船上からケーソン浮上・引出し状況を見学
3. 集合場所・時間：宮海船だまり 港湾業務艇「みずほ」係留岸壁（別紙参照）
午前7：45集合
4. その他：概略行程及び作業イメージ概要（別紙参照）

※ 取材をご希望される報道関係者の方は、9月20日（火）16時までに、以下の問い合わせ先に、別添申し込み様式にてFAXでお申し込みください。

〈発表記者會：酒田記者クラブ〉

【問い合わせ先】国土交通省 東北地方整備局 酒田港湾事務所

電 話：0234（33）6314

FAX：0234（35）2141

企画調整課長 鮎貝（あゆがい）、港湾施設分析評価官 土門

【申し込み様式】 ※申込期限：平成28年9月20日（火）16時必着

FAX：0234-35-2141

東北地方整備局 酒田港湾事務所 企画調整課 鮎貝、土門 行き

件名：酒田港ケーソン引き出し作業のプレス向け見学会

日時：平成28年9月21日（水）午前7:45～10:30頃

集合場所：宮海船だまり港湾業務艇「みずほ」係留岸壁

留意事項：

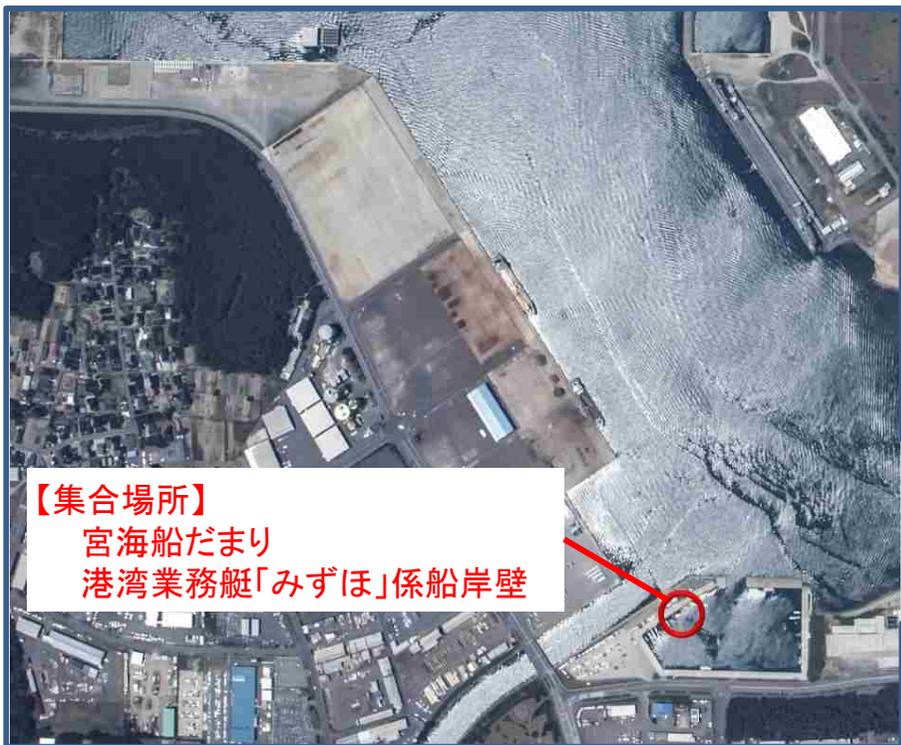
- 1) 船上からの見学になります。現地では係員の指示に従ってください。
- 2) 集合場所までの移動は各自でお願いします。
- 3) 当日になって、急遽、見学会の中止・延期をする場合は、参加申し込みされた連絡代表者の連絡先（携帯電話）に電話連絡いたします。
- 4) 当日、見学の際は、ヘルメットを着用していただきます。ヘルメットを準備できる方はご持参ください。ヘルメットを準備できない方については、こちらで手配可能ですので、申込時に連絡願います。
- 5) 見学は、工事の進捗状況を見計らいながら行いますので、時間が前後する場合があります。

報道機関名	
氏名 (全員の氏名を記入)	代表者) ----- 同行者) -----
TEL (代表者携帯電話番号)	
FAX	
E-mail	
借用希望	ヘルメット ----- 個

【個人情報のご記入にあたって】

ご記入いただきました個人情報は、今回の取材に関する管理、ご連絡にのみ利用させていただきます。

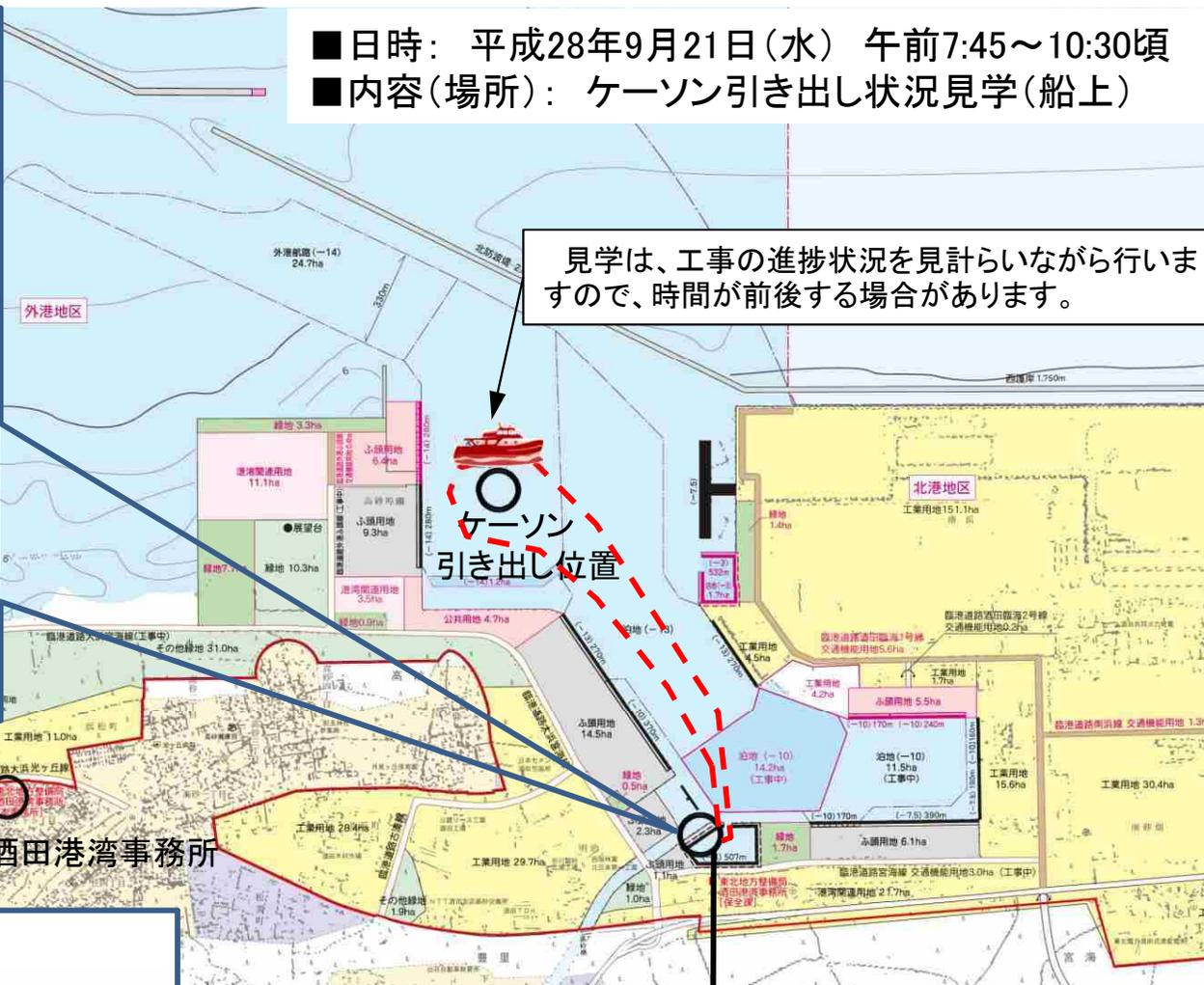
酒田港ケーソン引き出し プレス向け見学会 概略行程



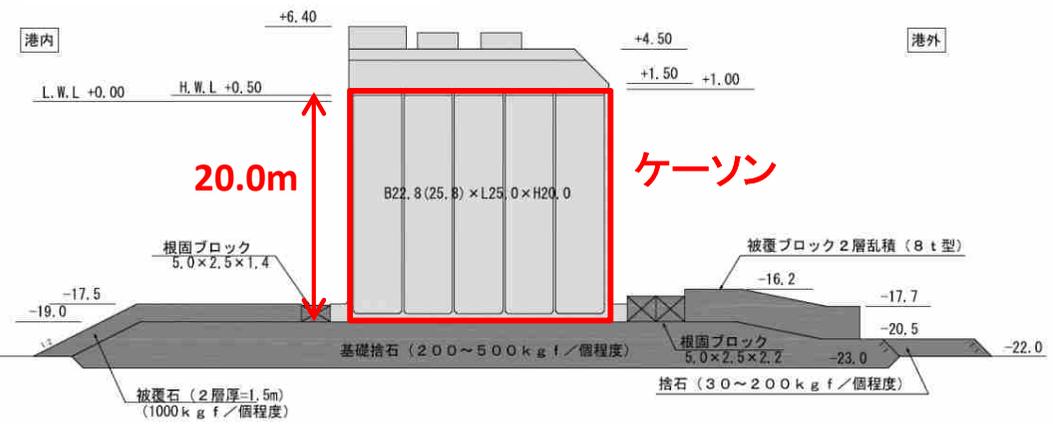
【集合場所】
宮海船だまり
港湾業務艇「みずほ」係船岸壁

■日時：平成28年9月21日(水) 午前7:45～10:30頃
■内容(場所)：ケーソン引き出し状況見学(船上)

見学は、工事の進捗状況を見計らいながら行いますので、時間が前後する場合があります。



第二北防波堤標準断面図

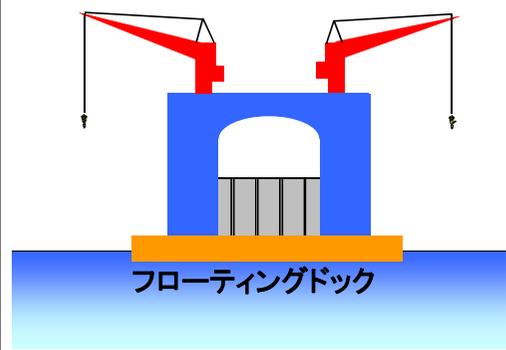


【集合場所】
宮海船だまり港湾業務艇「みずほ」係留岸壁
午前7:45 集合
船上から見学いただきます。

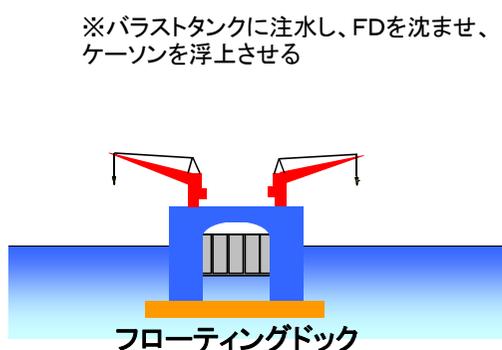
○防波堤工事手順(イメージ図)

※赤枠箇所: 今回の見学会で見学可能な工事内容

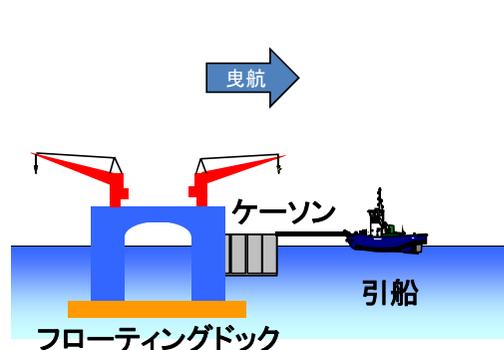
①ケーソン製作(FD)



②ケーソン浮上



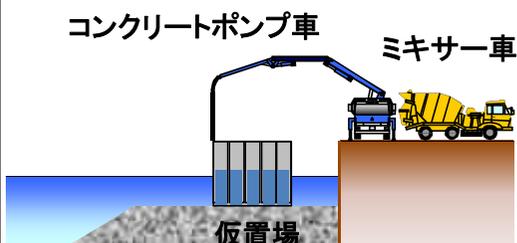
③ケーソン引き出し



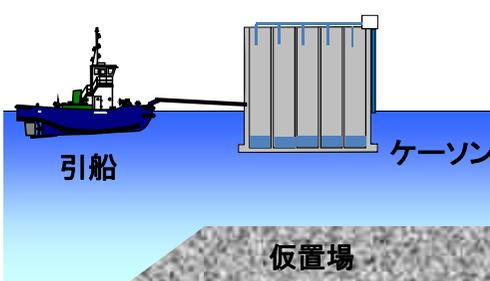
④ケーソン仮置



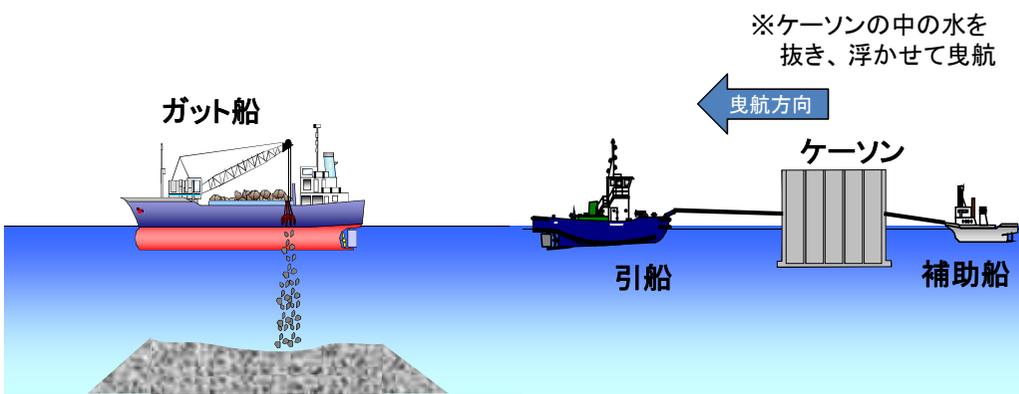
⑤ケーソン製作(海上打継)



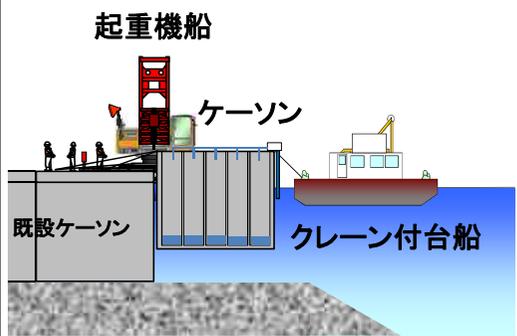
⑥ケーソン浮上



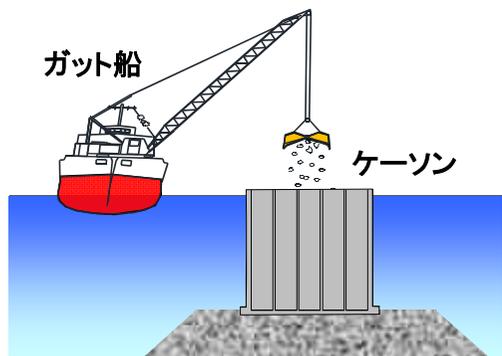
⑦基礎マウンド造成+ケーソン曳航



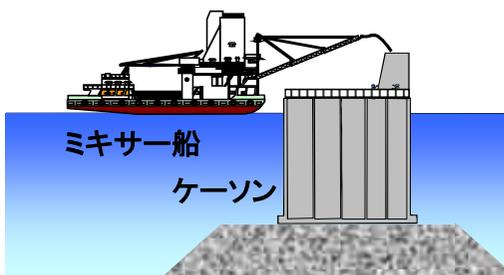
⑧ケーソン設置



⑨中詰材投入



⑩上部コンクリート打設

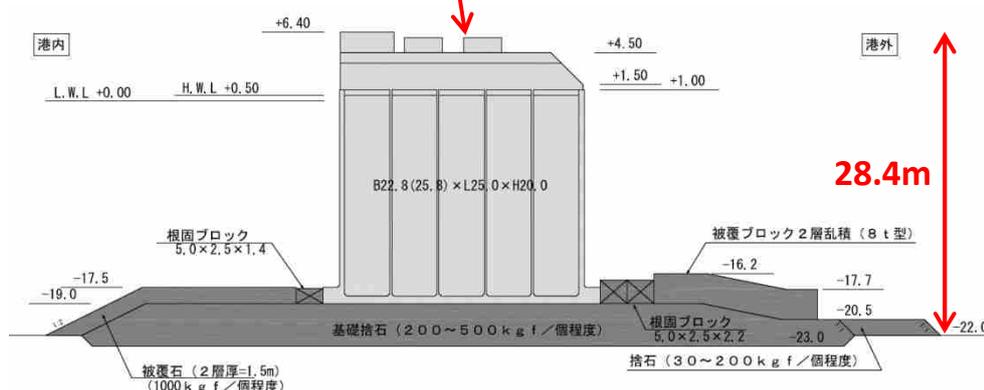


酒田港第二北防波堤ケーソンについて

ケーソン設置位置



第二北防波堤標準断面図



北港緑地展望台

※ 「ケーソン」とは、鉄筋コンクリート製の箱のようなもので、海中に並べることで防波堤を構成します。波の激しい外海に面している第二北防波堤には、酒田港で最大級のケーソンが使われており、海底面からの高さは北港緑地展望台(約30m)と同じぐらいになります。

酒田港の概要について

山形県唯一の重要港湾。港内の火力発電所向けの石炭を多く輸入していますが、特に最近では、中国・ロシア向けの紙おむつ等生活物資の輸出を背景として、平成27年の外貿コンテナ取扱貨物量が前年比60%増の22,028TEU(過去最高)となるとともに、国際定期コンテナ航路も昨年、週3便から週7便に倍増するなど、利用が拡大しています。